

第4次摂津市総合計画(案)に対するパブリックコメント(意見募集)結果

・意見募集期間 平成22年6月1日～30日

・意見提出 9人 18件

・提出方法 直接持参 2人 FAX 4人 電子メール 3人

※ゴシック・下線表示は計画に反映します

番号	寄せられたご意見(概要)	市の考え方
1	摂津市の高齢者は老人大学などの受講生が多いので、高齢者にとって学ぶ場を多く提供していること、また、していこうとすることが摂津市の特色であり、その方針は続けるべきである。	基本構想案21ページ「3 まちづくりの課題(5)」に掲載しているとおり、市民が生涯を通して学習やスポーツに取り組み、各自の知識や技能を活かして豊かな人生を送ることができる環境をつくっていくことが必要だと考えます。特に、超高齢社会を迎え、高齢者の知識や技能は、市民活動や地域活動、教育など様々な分野で必要とされるものであり、引き続き、学ぶ場を提供するとともに、活躍できる場を提供するなど活動を支援していきます。
2	摂津市では過去にペットの事件などがあり、自治会からもペットの飼い主のマナーの悪さが問題となっているとの意見があるので、重点でなくてもいいが、取り組みは必要と思われる。どこかの項目に残した方がいいのではないかと。	ペットの飼育マナーについては、基本的に飼い主の役割と考えます。基本計画案25～26ページの施策2-3-12「良好な景観のまちにします」の中で、自ら発生させたごみを適正に処理することを市民の役割として掲載しています。
3	いろんな立場の女性同士の理解や時間的に余裕ができた男性を取り込んだ活動をすることで男女共同参画が推進されると思う。また、男女共同参画の理念はすべての問題解決に通じるものであり、最重要課題であると認識している。特に次世代の子育て環境には必要不可欠で、少子高齢社会の問題解決にも役に立つと思う。それには、まず学習が必要で生涯学習スポーツ課との連携も不可欠と考える。もちろん、公務員(正規職員・パート職員)の意識改革を率先してほしい。	基本計画案49～50ページの施策4-7-23「男女が共同で参画できるまちにします」に基づき、市職員の意識改革を進め、あらゆる分野にまたがる問題について行政組織内での連携を強化し、市が率先して「摂津市男女共同参画計画」の推進に取り組んでいきます。
4	総合計画はビジョンであり未来像、幻想である。第3次総合計画の未達成も原因追究がされていない。	第3次総合計画の全施策について、平成20年度に総括を行いました。施策の取り組みに対する評価、市民アンケート結果に対する分析、関連する社会経済環境の変化をふまえて、第3次総合計画全体について総括し、今後の課題や対応などを整理しています。
5	第3次総合計画では、2010年の予測人口が100,000人であったが、実態は未達である。総合計画の立案に問題があったのではないかと。減少になった要因分析と対策を検討のうえ、2020年人口80,000人の目標達成の具体策を示していただきたい。	平成8年に策定した第3次総合計画では、モノレール新駅の開設や土地の一層の有効活用などを見込み、2010年の人口を100,000人と想定しました。しかしその後、予想を超える経済不況、少子化などにより社会経済環境が大きく変化しました。そのような状況でも、限られた財源の中から施設整備や教育・福祉などソフト施策の充実に取り組んできましたが、人口は低減傾向にあります。第4次総合計画基本構想案で示す将来人口は、自然増減、社会増減のほか、平成23年度から10年間で取り組む南千里丘・吹田操車場跡地の開発地域増減も加味した推計です。できる限り人口減少を食い止められるよう、行政組織内の連携を図り、具体策として、施策の目標達成の手段である事業を検討していきます。

番号	寄せられたご意見(概要)	市の考え方
6	<p>人口の目標8万人も具体的方策も年齢別構成比の検討も少子化対策の具体案が何一つ示されていない。目標達成のために何をどのように行政がサポートするのか分からない。したがって検証する際、具体的原因が判断できない。産婦人科の誘致、若者用マンション、情報産業の創業・誘致等。</p>	<p>第4次総合計画基本構想案で示す将来人口は、自然増減、社会増減のほか、平成23年度から10年間で取り組む南千里丘・吹田操車場跡地の開発地域増も加味した推計です。年齢構成比も同様です。少子化は全国的な傾向であり、市単独で解決することは難しいと考えます。第4次総合計画はめざす都市像を「みんなが育む つながりのまち 摂津」とし、市民・事業者・行政などが協働してまちづくりを行うことを大きな柱としています。「協働」を実現することで市の魅力が向上し、その結果、「住みたい」「住み続けたい」まちとなって人が集まるという考えです。協働を実現するための「行政の役割」は、基本構想案38ページに掲載しているとおりです。</p>
7	<p>行政組織内の連携を強化して総合計画、行財政改革を推進しますといわれるが、利害関係の異なる縦割り行政をどのようにして改革するのか、具体案はあるのか。単年度実績予算では、メリハリのある行政は困難である。駅前開発・整備、歩道、公園、保育所と幼稚園、まちづくりと政策推進など、同じ方向性を共有しなければ計画が達成できない。</p>	<p>行財政改革は最少の経費で市民満足度を高めることが主な目的であり、総合計画の目標達成に必要な財源を確保するとともに、より効率的・効果的なサービスを実現するために実施するものです。したがって、両面から見て最良な選択を行っていくことが大切だと考えています。</p> <p>また、基本計画の施策を具体的にどのように実施していくかについて、3年の期間で示した実施計画を別途策定します。基本計画案101～102ページの施策7-14-47「地方分権に対応した行政経営を行います」に基づき、行政組織内の政策・施策調整機能の強化、連携の強化に取り組んでいきます。</p>
8	<p>基本構想、基本計画だけでなく、行財政改革実施計画に合わせた2015年までの実施計画を具体的に開示して、3年後、5年後に進捗状況が検討できるようにしていただきたい。</p>	<p>実施計画は毎年の予算の指針であり、施策の目標を達成するための事業を掲載するものです。基本構想、基本計画が完成してから、別途策定します。また、施策は事業の中・長期的な目標であり、事業はその目標を達成するための手段ですので、実施計画は短期間で見直しする必要があることから、3年間という期間を設定しています。</p>
9	<p>用字用語の使い方としては、常用漢字を用い、全体的に統一するべきである。 (例)・あたって→当たって(P2, 3, 11) ・生む→産む(P6) ・公民→市民(P20) ・活かし→生かし(P20, 21, 26, 38) ・一人ひとり→一人一人(P24, 28, 33, 34) ・さまざま→様々(P35, 37)</p>	<p><u>原則、摂津市公用文作成基準や常用漢字などにに基づき使用していますが、公用文特有の硬さを少しでもなくすため、これらを用いない場合もあります。全体を通してバラつきがないよう統一を図ります。</u></p>
10	<p>次の新しい施策・事業は基本計画に追加する必要があると思う。</p> <p>1. 「機能別消防分団」が発足 市内3企業の自衛消防隊が市の消防団として、平日昼間の火災の消火活動へ出動し、昼間の消防体制が強化され、安全・安心のまちづくりに役立つ施策である。</p> <p>2. 「特定健診の検査項目に心電図、眼底検査」の追加 病気の早期発見、治療に役立つもので、市民に周知し、健診の受診率の向上を図ることが重要である。</p> <p>3. 「スクールソーシャルワーカー」全中学校に配置 虐待や育児放棄が増加、家庭環境や友人関係などを把握し、市の福祉担当部署や子ども家庭センターなどとの連携を強化するなど組織的な対応力の向上を図る事業である。</p>	<p>「機能別消防分団」については、基本計画案33～34ページの施策2-3-16「消防・救急救助体制が充実したまちにします」の施策の展開「地域消防力の向上」に掲載していますとおり、制度を拡充していきます。</p> <p>「特定健診の検査項目の追加」については、基本計画案73～74ページの施策4-8-33「安心して医療が受けられるまちにします」の摂津市の特色や魅力のある取組みとして、特定健診の充実を掲載しており、これに含まれます。</p> <p>「スクールソーシャルワーカーの全中学校への配置」については、基本計画案81～82ページの施策5-10-37「子どもたちの「生きる力」を育むまちにします」の摂津市の特色や魅力のある取組みとして、掲載しています。</p>

番号	寄せられたご意見(概要)	市の考え方
11	実施している姿を確認する指標について、各施策・事業に予算が付けば平成23年度から毎年度の目標値を算出してほしい。また、進行管理をするためにも工程表の作成が重要である。また、本欄の年号が「H」になっているが、「平成」の方がよいと思われる。	計画途中の目標値は設定しませんが、基本構想案3ページに掲載していますとおり、基本計画については計画前期にあたる平成27年度(2015年度)までの活動状況や達成度の検証を行う予定です。また、進行管理は実施計画に基づき行政評価システムを活用し、行っていきます。 指標の年号については、「平成」に統一します。
12	関係する分野別計画の欄が空欄になっている施策が多く見受けられる。記入するか、もし、該当計画がなければ本欄を削除すればよいと思う。	該当計画の有無がはっきりと分かるよう表記方法を工夫します。
13	「障害のある方」「障害のある人」と表記にばらつきがある。統一するべきである。	地域福祉計画と同じ、「障害のある人」に統一します。
14	住民の安全・快適なまちづくりという点からも、子どもからお年寄りまで元気で社会活動に参加できる場を確保する点からも旧味舌小学校・旧三宅小学校の跡地活用にもっとスポットをあてるべきだと思う。防災面から避難所として、地域活性化の面からデイハウスや学童ホーム、趣味のサークルの場などに活用し役立てたらどうか。また、夏期だけでもプールを使わせてほしい。	旧味舌小学校・旧三宅小学校は、体育館を恒久活用、グラウンド・校舎は平成23年3月31日までの暫定活用としており、その後の活用方法は検討中です。社会経済環境や本市の財政状況をしっかりと見極めながら、売却も含め、あらゆる選択肢を排除することなく検討しているところです。
15	近隣の市にはすべて山があるが、摂津にはなく、それだけ緑も少ない。正雀川を越えると、吹田には樹々がおいしげり、摂津の人が朝夕散歩をしている。吹田操車場跡地の活用等大いに考えてほしい。	基本計画案9～10ページの施策2-2-4「良好に土地を利用し安心して暮らせるまちにします」及び13～14ページの施策2-2-6「多様な世代が暮らす新しいまちをつくります」に基づき、市民参画により、緑豊かな居住空間の形成を進めていきます。
16	摂津の道路事情は最悪。何とかしてほしい。	財政状況の厳しい中、道路整備が追いついていないのは事実です。今後も危険度の高いところから優先して整備や改良を実施していきます。
17	正雀市民ルームの料金が安い。市民ルームという名前を掲げていながら、市民にとっては高値。何とかしてほしい。	使用料金は、他市の同様の施設を参考にして設定し、条例で定めています。
18	別府にバスを通してほしい。正雀も千里丘も摂津市駅も遠い。あまりにも不公平過ぎる。高齢者が多くなっているので切に願う。	基本計画案17～18ページの施策2-2-8「公共交通が便利なまちにします」に基づき、地域や事業者と連携しながらバス路線網の再編・整備に取り組んでいきます。